

まちで障がいをお持ちの方に出会ったら

私たちのまちでは、さまざまな障がいのある方が暮らしています。ここでは代表的な介助や援助の方法を紹介しますので、困っている人に出会ったときの参考にしてみてください。

<p>聴覚障がい者</p>	<p>聴覚障がいのある方とのコミュニケーション方法には、手話・口話・身振り手振り・筆談など、さまざまなものがあります。協力を頼まれたら、まずはジェスチャーや筆談で、どうしてほしいのかを聞いてみましょう。</p> <div data-bbox="1075 443 1426 663" style="border: 1px solid black; border-radius: 10px; padding: 5px;"> <p>※筆談のポイント!</p> <p>①文章はできるだけ短く区切って書く</p> <p>②必要なときは絵や図を使う</p> </div>
<p>肢体不自由者</p>	<p>まちの中には車イスを使用している方が移動しにくい箇所が多くあります。手伝いを求められたら、安全に気をつけて対応しましょう。</p> <p>車イスの使い方(介助タイプ)</p> <ol style="list-style-type: none"> ①ブレーキ： 停車しているときに走り出さないように、ロックしておく。 ②ハンドグリップ： ここをもって車イスをおす。 ③ステッピングレバー： 介助をするとき、ここを踏んで前輪(キャスト)を持ち上げる。 ④後輪： 自走タイプの車イスには、ここに、手をかけて車輪をまわすためのハンドがついている。 ⑤キャスト： 衝撃に弱いので、介助をする時は注意。 
<p>視覚障がい者</p>	<p>視覚障がいのある方が困っている場合は、まずは声をかけましょう。誘導を頼まれた時は、どのように誘導してほしいかまず尋ねてから(一般的には腕をつかんでもらい、介助者が半歩先を歩く)誘導しましょう。</p>  <p>説明は具体的にしましょう。例えばものの位置を示すときには、方向を時計の文字盤に見立て、「〇〇時の方向にあります」などと説明する方法もあります。</p>
<p>内部障がい者</p>	<p>身体内部(心臓、呼吸機能、じん臓、膀胱・直腸、免疫機能など)に障がいがある方は、外見から分かりにくいいため誤解を受けやすい場合があります。</p> <p>「優先席に座りたい」、「近くで携帯電話を使うのを控えてほしい」と思っている方もいます。そのような時は席を譲ったり、電源を切るなど適切な対応をしましょう。</p>  <p>※ハートプラスマーク(右図)…内部障がいがあることを表しています。身体内部を意味する「ハート」に思いやりのところを「プラス」して作られています。</p>
<p>精神障がい者 知的障がい者</p>	<p>人とのコミュニケーションが苦手な方が多いです。同じことを何度も尋ねたり、自分の言いたいことをうまく伝えられなかったりする方もいます。電車の乗り場や道順などを尋ねられた場合も、一度に説明せず、ゆっくりていねいに説明しましょう。</p>

(資料:内閣府HP)